

FUTURE EVENT 01

名古屋芸術大学展  
卒業・修了制作展2018選抜展+OB制作展

2019年4月23日[火]-29日[月・祝] 会期中無休  
愛知県美術館8階ギャラリー H・I室  
開館時間: 10:00-18:00(金曜日は-20:00)  
主催: 名古屋芸術大学

名古屋芸術大学は、中部地域唯一の私立総合芸術大学として、開学以来、教育研究活動を展開し、数多くの芸術家を育成するとともに、多様な芸術活動や社会実践等を通じて、芸術文化の発展に寄与してまいりました。この度、来年に創立50周年を迎える節目にあたり「名古屋芸術大学展」をスタートさせる運びとなりました。

本展を開催する目的は、名古屋芸術大学の社会におけるアクティビティを最大限に開示することです。卒業・修了後、5年~10年を経て社会で活躍するようになった若手のアーティストやデザイナー、及び去る2月に本学キャンパスで開催された卒業・修了制作展において優秀な成績を修めた作品を一堂に集め、展覧するものであります。

芸術大学を卒業・修了した後も社会にその能力を認知され、人々に親しまれるようになるまでは自ら多くの研鑽を積む必要があります。クリエイターとしての本領は在学中の努力だけではなく、むしろ大学を巣立った後の持続によって得られるものかも知れません。本学では、このようなOB・OGの活躍を支えていきたいと考えております。

今後の社会を担っていくアート・デザインの若い開拓者たちの成果を、心ゆくまでご覧ください。

学長 竹本義明

<OB・OG 出品者>

- 白澤 真生 (テキストデザインコース2005年卒業)
- Bouillon (スペースデザインコース2010年卒業)
- 坂本 和也 (洋画2コース2012年卒業・大学院美術研究科美術専攻同時代表現研究領域同時代表現研究2014年修了)
- 水野 里奈 (洋画2コース2012年卒業・多摩美術大学美術研究科絵画専攻油画領域2014年修了)

<2018年度卒業・修了生 出品者>

- 鈴木 崇仁 (洋画2コース)
- 牧野 晃英 (洋画2コース)
- 和田 彩都 (アートクリエイター/陶芸・ガラスコース)
- 小笠原 盛久 (大学院美術研究科美術専攻同時代表現研究)
- 高橋 尚子 (大学院美術研究科美術専攻同時代表現研究)
- 金子 莉奈 (メディアデザインコース)
- 河瀬 佳花 (ヴィジュアルデザインコース)
- 小西 なつみ (ヴィジュアルデザインコース)
- 水野 真由 (ヴィジュアルデザインコース)
- 伊藤 溪又 (スペースデザインコース)

編集後記

卒業制作展の二度目の学内開催が終わりました。これまで学んだ教室を展示場所とし、4年間の集大成となる作品を発表した卒業・修了生たち。名芸で働いている自分でも初めて足を踏み入れる場所がたくさんあり、楽しい16日間でした。連日学生食堂もにぎわっており、OBたちも機嫌よく利用した方が多かったことでしょう。学生の頃によく食べていた「唐揚げ丼」は、甘辛いタレを絡めた唐揚げがとってもおいしいのですが、家で再現しようとしてもうまくできません。学食で働く方たちはテキパキとメニューをサッと提供できてすごい! 市原萌絵(アート&デザインセンター)



最寄りの交通機関をご利用の場合  
名鉄大山線(地下鉄舞臺線乗り入れ)徳重-名古屋大駅下車西へ約1,000m徒歩15分  
※急行一乗電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください  
中部国際空港からも名鉄大山線をご利用ください  
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります  
自動車をご利用の場合  
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分

Open 12:15-18:00(最終日は17:00まで)日曜休館 入場無料 どなたでもご覧いただけます。  
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

- 4/1(日) → 4/17(日) レビュー選抜展 ※土日休館
- 5/17(日) → 5/22(日) PLAY GROUND イラストレーションコース作品展
- 5/24(日) → 5/29(日) ぽきよぽきよ展(仮)
- 5/31(日) → 6/5(日) K109展
- 6/7(日) → 6/12(日) 教員展
- 6/14(日) → 6/19(日) オリジナル4
- 6/21(日) → 6/26(日) After Denmark 2019展
- 6/28(日) → 7/3(日) プレソツ展
- 7/5(日) → 7/10(日) PASSION(仮)/芸術教養レビュー/CDA大学院展
- 7/12(日) → 7/17(日) ぐねるところにすむところ/前期交換留学生作品展
- 7/19(日) → 7/24(日) 素材展(メタルコース)
- 7/26(日) → 7/31(日) 素材展(テキストコース)

名古屋芸術大学 Art & Design Center

〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL[0568]24-0325 FAX[0568]24-2897

Ble Vol.50  
発行日 2019年3月31日

編集・発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター  
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nua.ac.jp URL http://www.nua.ac.jp  
2018 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社



年に1回アート&デザインセンターで放送している「アーツ!ラジオ」が10周年を迎えました。

始まりは2009年、美術学部洋画コースの大崎正裕教授の「名古屋芸術大学発ラジオ番組を作って流したい」という熱い思いからスタートした企画です。当時の洋画コースの学生と助手が手探りにラジオ放送のノウハウを学び、仮設スタジオを建て、多くの苦勞を経て無事放送にこぎ着けました。

スタートした頃はラジオ番組だけでなく、ギャラリーを使つてのパフォーマンスやライブなど様々な活動を行っていました。

「アーツ!ラジオ」といえば毎回の多彩なゲストと番組コーナー。過去には岡崎市の非公式キャラクターのオカザえもん、イラストレーターの天野喜孝、ジャーナリストの丸山ゴンザレスなど、そんな大物をどこから呼んできた!?と驚くこともしばしば。毎回ラジオチームを結成し、学生に最近興味のあることやお話を聞いてみたい人を募って、コネクションを持っている先生がいればその繋がりからアタックしているとのこと、先生方の交遊関係の広さにも驚かされます。

これまではアート&デザインセンターでの企画展ということで3日間放送を行っていましたが、2018年度の第46回卒業制作展では会期中にラジオ放送を行いました。16日間に計21番組の放送ということで、せわしく動き回っていた主要スタッフの1人であり洋画コース助手の山口諒さんにお話を伺いました。

### これまで大変だったことは何ですか？

山口…スタジオが仮設なので毎回セットを組んで、ラジオプロジェクトが終わったら解体するのが大変ですね。

### やりがいを感じることは？

山口…普段西キャンパスはコースごとに棟が分かれていて、他のコースとの交流がなかなかありません。でもラジオ番組に出演してもらったり番組制作に関わってもらうことで、コースの垣根を越えたコミュニケーションが取れます。それはきっと学生たちにとって制作の上でプラスになることだし、音楽領域や芸術教養領域などなかなか関わりのないコースの学生がどんな勉強をしているのかもわかる。そういった経験を学生とともに得ることができるのはとても楽しいです。

山口さんは2009年の第一回目の時に学部1年生。それから10年を「アーツ!ラジオ」とともに歩んできました。2月24日の放送では、「ラジオから遠く離れて」と題し、第一回目の発案者である清水 梓さんと二回目のリーダーとして活躍された杉浦 光さんが出演されました。もともと洋画コースで内々に活動していたラジオ放送を、コースの中だけでなく広く皆に伝えたい。そんな思いから発足した「アーツ!ラジオ」は、人に伝えたいことをまず原稿に起こし、テーマについてじっくりと考える勉強にもなっています。人に何かを伝えるということは作品制作をする上でも大切なこと。ラジオ番組制作を通じて企画力、思考力、伝達力を高めるべく、現在では3年生の授業に組み込まれています。

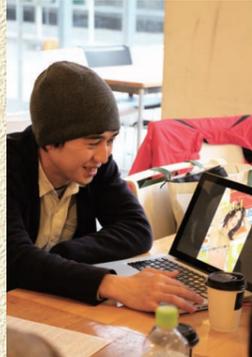
昔は有志で作り上げていた「アーツ!ラジオ」も少しずつ形を変えながら領域を越えて進化し続けています。これからの「アーツ!ラジオ」にも乞うご期待!



# aaarts!radio



思い出話に花が咲く、左から杉浦さん、清水さん、大崎正裕教授



第一回目のチラシをみながら振り返る山口さん。

セットの壁には横山豊蘭さんの書道アートが



## アーツ!ラジオ

主催：名古屋芸術大学卒業制作展運営委員会  
企画・制作：「仮設」—構想領域研究室  
2018年度名古屋芸術大学美術領域洋画コース

総括・管理：大崎正裕  
企画サポート：横山豊蘭、山口諒  
スタジオ制作：奥村岳史、山口諒、洋画コース学生

## Report 1

### Slow Force Agnieszka Golda Martin Johnson 2018年10月12日[金]ー17日[水]

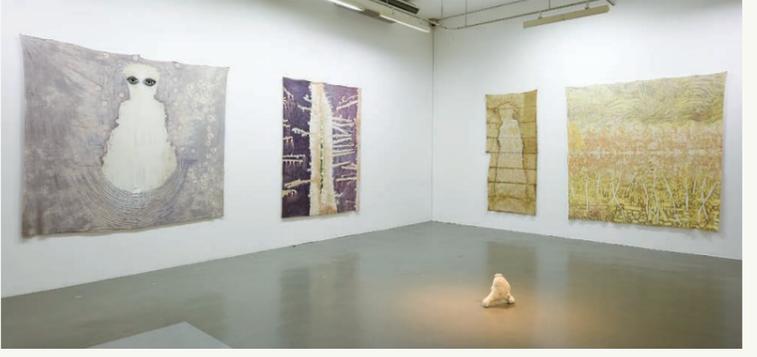
アグニエスカ・ゴルダとマーチン・ジョンソンは、オーストラリア在住のアーティストです。アグニエスカはテキスタイル、マーチンは彫刻と専門は違いますが、学生時代から協働してミクストメディア・インスタレーションを制作しています。

タイトルにあるように、ゆっくりとつくっていくプロセスを重視し、オーストラリアの自生植物を使った染色、名古屋市の有松で学んだ絞り、ニードルフェルト、手彫り、ステンシル、ペインティングといった技法を駆使しています。それらは、絹布やワール、木といった自然素材から来ています。

彼らの作品には、いつも不思議な生き物が出て来ます。それは大きな目(日本の少女まんがのキラキラした目からインスパイヤーされた)をしてこちらをじっと見つめていたり、虚ろな風情で床に転がっていたりします。アグニエスカは子どもの頃、「まんが日本昔ばなし」をテレビで見ていたそうですが、このアニメにはさまざまな精霊が出てきます。古代日本では自然物に精霊が宿っていると信じられていましたが、オーストラリアの先住民アボリジニも同じような信仰を持っていました。

今回の作品は、オーストラリアのマウントケイラと有松の現地調査に基づいて、人類と人類以外の世界のつながりを描き出しています。彼らは環境的に持続可能な営みを表現しており、現代社会を生きる私たちに、地球上に広がる問題意識を静かながらも強く突きつけていました。

扇 千花 テキスタイルデザインコース教授



## Report 2

### 旧加藤邸アートプロジェクト2018 「記憶の庭で遊ぶ」 2018年12月1日[土]ー9日[日]

本学が位置する北名古屋にある旧家屋を活用した展示会が9回を数えました。この展示会は出品者を在学生・卒業生から広く公募し、提出されたプランをもとに選ばれた彼らが自ら、会場となる旧加藤家住宅敷地の中から展示場所を選定し開催されています。この旧加藤家住宅は明治時代に建てられた日本家屋で、国の登録有形文化財に指定されています。本展示会では現代を生きる私たちが表現する舞台となり、「記憶」や「遊び」をキーワードに時代性を感じさせる「何か」を読み解いた4名による作品が設えられました。またオープニングセレモニーとして、アーティストトークと音楽ケアデザインコース有志による音楽パフォーマンスが行われ、展示会に彩りを加えました。

さて、最新のものにはこれまでにない魅力があります。一方で時間経過の蓄積は、ただそれだけで訴えかける強さを持ち備えています。新しく生まれた作品群と、すでに歴史を含んだ場所が有機的に結びつき、表現が時代性を超越していくことに醍醐味を感じる事が本展の最大の魅力といえるのかもしれませんが、つまり、場所そのものから感じられる時代性と私たちが生きるこの時代のライブな感覚が交錯する中に、未来への憧憬が含まれているようにも感じられるのです。

ビルが乱立する情報化社会である現代とは懸け離れたこの場所では、私たちの「記憶」そのものが浮遊してしまいます。同時代に存在するこの場所が外界から遮断されたユートピアのように感じられてしまうのは、とても不思議な「何か」が存在していると言えます。作品は作者にとって意思を残すための手段の一つです。とすると、旧加藤家住宅も「作品」と言えるのかもしれませんが。

中田 ナオト アートクリエイターコース准教授



芸術一話  
ART WORDS  
FROM THE  
ART WORLD  
25

アートコーディネーター/  
Minatomachi Art Table, Nagoya  
プログラムディレクター

吉田 有里  
Yuri YOSHIDA



### 第25話 まちとアートをつなぐ

東京の郊外の美術大学で芸術学を学んでいた頃、友人に誘われアートプロジェクトに関わった経験が今の仕事に大きくつながっています。2001年に秋葉原の電気街をジャックし映像作品を上映するプロジェクト「秋葉原TV」を手伝いに行きました。そこにはアーティストやキュレーター、コーディネーター、デザイナーなどの様々な職能を持った人たちが、毎晩遅くまで展示会の準備をしていました。アーティストが作品を発表する時の妥協しない姿、コーディネーターの細やかな気配りや、トラブルをアイデアで解決する様子、迅速で職人技のデザイナーたちの仕事、大学の授業だけでは知ることのできない刺激的な現場がありました。

その後もトリエンナーレのボランティア参加、アートセンター・美術館でアルバイトをした学生時代の経験から、まちに出て多くの人がアートに触れる環境を広げたいと思うようになりました。

現在は、名古屋港エリアでアートプログラム「MAT, Nagoya」や音楽とアートのフェスティバル「アッセンブリッジ・ナゴヤ」の企画・運営を様々な職能を持つメンバーと共同で行なっています。この場所で初めてアートに出会う人のことを想像すると責任ある役員であると感じながら、まちとアートをつなぐ仕事をしています。名芸生のみなさんも、ぜひ一度遊びに来てください。もし現場を体験したい方は、ぜひ声をかけてください。いつでも歓迎しています!

